

入賞

食生活を考える～給食から～

岩出中学校 一年 光野 由真

私は毎日、ご飯、給食を食べている。でも今世界的に、食べ物残りが増えてきている。

あるCMで、おにぎり一億個ぐらい一日で残されていると知りました。でもその一億個で、たくさんの人を助けられるかもしれないと思います。それで、私は、例えばあまり食べられない、お腹いっぱいと思って残す人は、自分のその時のお腹の調子にあわせたり、そもそもあまり食べられない人は、たくさん作りすぎないなど自分にあった工夫をすると思います。もし、どうしても「無理。」だと思ったら、次の日のご飯にしたり冷とうなどしたらいいと思います。

私は毎日給食、朝、昼、夜ご飯を食べられています。でもやはり、「この食材好きじゃない。」や「あんまりおいしくないなあ。」などが絶対あると思います。でも私は食材、動物などに感謝し、食べられていることに「ありがたみ」を持ち、責任を持って完食したいとこの作文を書いて改めてそう思いました。それで、「いただきます。」「ごちそうさまでした。」なども手をしっかり合わせてしようと思いました。

「食べる」ということは、単純だけれどそれはすごく大変なことだと思います。だからお父さんとお母さんに感謝します。私は食べる事はとても好きです。おいしいものを食べていると、すごく幸せな気持ちになります。最初にいったように、その一億個でたくさんの人を幸せにできます。だからこれからは、そういうことを意識しながら生活していきたいです。でも私も、急いでいる時など給食でも、米つぶを食べないままお皿を片づけたこともあります。だから、私も、この作文を書いて、改めて食生活を見なおしたい思いました。大人になる時には、急いでいる時でも米つぶ一つも残さないようになっていきたいです。そしてそれと同時に、世界でも一億個から少しでも残す量が減っていくと、人を助けられて幸せにできたらいいなと思いました。

私の考えた想像ですが、その残す量が減り続けたら、環境にも優しくなるような気がします。特に給食は、残されたご飯はブタの食べ物になると聞いたことがあるような気がします。そして、それが良いか悪いかは私は分かりませんが、私がブタだったら「残ったご飯じゃなくて、もうちょっとキレイなご飯がいいなあ。」と感じると思います。

ご飯はすごく大事だと思います。もし、学校で三時間目に体育の授業があってすぐお腹がすいた後、四時間目終わりの給食は、とてもおいしく感じます。だから、今年、家でのご飯、給食を残さないということを自分の目標にしていきたいです。すごく当たり前だけれどそれが難しい時もあります。それでも絶対残さないように食べます。

私は、毎日ご飯を食べられています。でも世界の問題にもなっています。「食べる」ということは、すごく当たり前だけれど、一億個という数字ができるだけ減るように、これからも感謝し、「食べる」ということを続けていきたいです。